校長あいさつ

本校がある霞ケ関地区は、明治22年、的場村と笠幡村、安比奈新田が合併し、「霞ケ関村」となりました。本校開校は明治36年4月、翌年2月に村の中央である現在の場所に移転しました。学区内の多くの保護者の方や地域の方が本校の卒業生であり、教育活動に御支援、御協力をいただいております。

さて、今年度本校は、８７名の1年生を迎え、全校児童６４１名、２２学級（内、特別支援学級４）でスタートいたしました。学校教育目標は、心豊かなたくましい子の育成に向け、霞ケ関小学校の「か・す・み」の頭文字から、「かしこい子・すこやかな子・みりょくある子」を掲げ、教育活動を展開しております。また、目指す学校像は、「人（児童、保護者・地域、教職員）を大切にし、笑顔あふれる学校」といたしました。

学校は、子どもが生活している場所です。本校では様々な教育形態にて、教育活動を展開しております。そのため、教職員も多く、一人一人に充実した教育機会を与えることができる学校です。一人一人の子どもたちの自己満足感を充満させることで、子どもたちは「学校が大好き」と言います。

また、学校は集団生活の場でもあります。互いに協力して助け合うことや、学び合うことに意義があります。そこでは対話が求められ、挨拶は重要な鍵となるのです。挨拶なくして対話は始まりません。本校では、主体的、対話的な学びを推進し、すべての教科において、実践する取り組みを行っております。

また保護者、地域の期待に応える学校づくりに向け、子ども一人一人に助け合うことのすばらしさや、学び合うことの喜びを学校で経験させ、夢や希望がもてる子どもを育てていきたいと思っております。

そこで、本年度の重点として、次の５点について取り組みます。

①「学校大好き」と言える子を育成する。

　②あいさつができ、心豊かで規範意識を持った子を育成する。

　③目標を持たせ、わかる喜び、できる楽しさを味わう授業を実践する。

　④小中連携・霞ケ関５校の連携、保護者・地域との連携を深化させる。

　⑤学校力向上のための組織運営と意識改革をする。

学校で様々な経験をした子どもが、将来常に自分を高めることを心掛け、社会のため、人のために尽力を惜しまない人間になることを期待し、全教職員が一丸となって、熱意・誠意・創意をもって教育にあたってまいります。